

別記第1号様式

平成15年度事前評価調査書

機関名 アイヌ民族文化研究センター

整理番号	3	研究課題名	「山田秀三文庫」の整備と分析調査			
事業区分	重点領域・一般試験等 一般試験	研究区分	研究	試験	調査	分析
共同研究機関 (協力機関)						各種施策等との関連性 第3次北海道長期総合計画 大項目：だれもが安心して暮らせる住み良い社会を形成する。 中項目：アイヌの人たちの民族としての誇りが尊重され地位の向上が図られる社会の実現 目 標：アイヌ文化の保存振興とアイヌの人たちに対する理解の促進
研究期間及び 所要見込額(千円)	16年度～22年度	初年度	次年度	次々年度以降	全体所要額	
		509 (509)	753 (753)	4,101 (4,101)	5,363 (一財 5,363)	
研 究 の 概 要						
- 研究背景 研究センターが所蔵する「山田秀三文庫」は、アイヌ語地名研究の第一人者である故・山田秀三氏が研究に用いた資料のほぼ全体を網羅する貴重な資料である。その中には、北海道・東北地方のアイヌ語地名等に関する膨大な関係資料が含まれている。研究センターでは順次その公開準備を進めているが、これらを一般の利用により適したかたちで提供し、アイヌ語地名の学習・研究に資するためには、個々の資料の背景や相互の関連を明らかにし、詳細な目次や検索方法の充実等を図る必要がある。 - 研究目的 山田秀三文庫の音声・映像資料、文書資料、写真資料について、これからのアイヌ語地名の学習・調査研究に使いやすいかたちで提供できるよう、個々の資料の内容や背景、相互の関連性等についての分析を進め、利用に便利な情報やその検索方法を整備する。 - 研究内容 資料内容に関する調査：写真資料や調査記録文書等について、内容を細密に点検し、関係者・関係機関(山田秀三が聴き取りを行った伝承者、山田秀三の調査に同行した研究者、調査を行った地域の博物館等)への聴き取り調査等も行い、調査・撮影された場所、年月日、被写体となっている景観や人物を明らかにする。 資料の関連性の確認：上記の作業と並行して、調査記録メモ、写真、地図、その他の資料について、相互の関連性(写真とノートの間、調査記録と公開された著作の間)を明らかにする。 調査収集した情報の整備：上記の作業を通じて収集した情報を整理して資料の解説や索引を作成し、一般の利用に適した形で提供する。(資料集の刊行、詳細な内容目次の作成等) - 年次別目標 分析資料数 約40,000点 H16～18年度：主に北海道内に関する資料を対象に、内容調査及び相互関連に関する分析を行う H19～20年度：上記の作業を継続しつつ、対象を東北以南に拡大する H21～22年度：調査・分析結果のとりまとめ(細目次の作成、情報検索方法の整備等) - 研究計画の適切性 資料の点数が膨大であることに加え、調査地域が道内全域のみならず東北、北関東等の各地に及ぶことから、基礎調査とその分析に5カ年を見込み、その後とりまとめるため、必要な期間を7カ年と設定しており、経費等と併せて適切な計画である。						
重要性・緊急性 (a)・b・c ニーズの有無 (a)・b・c 新規性・独創性 (a)・b・c 研究計画の適切性 (a)・b・c						
研究の成果と活用策						
- 期待される成果 ・本調査研究を通じて、「山田秀三文庫」の個々の資料の内容、特徴、背景、相互の関連性等を明らかにし、それらを広く提供することができる。 「山田秀三文庫」の詳細な内容目次網羅的な検索方法(地名・市町村名等をキーワードにした検索等)を整備し、提供することができる。 - 実現の可能性 研究センターでは既に山田秀三文庫の概要を目録化し(平成15年度で終了予定)、主要な資料についてはデジタルデータ化を進めてきた。これらは本研究課題を行うための下地となるので、所期の成果を十分実現できる。 - 成果の活用策 ・「山田秀三文庫」は、アイヌ語地名に関し他に並ぶもののない一級の資料群である。この「山田秀三文庫」について、調べやすく使いやすい情報を提供することにより、アイヌ語地名に関する学習・教育・調査活動に大きく資することができる。 - 北海道の地名の多くはアイヌ語地名に由来するものであることから、本調査研究の成果は、道内の各自治体・地域の歴史と文化に関する研究や学習に資することができ、郷土の歴史に対する認識の深まりと、それを通じたアイヌの文化・歴史に関する理解の促進に資することができる。						
実現の可能性 (a)・b・c 活用の可能性 (a)・b・c						
道が取り組む必要性						
・「山田秀三文庫」は、アイヌ文化の研究、特にアイヌ語地名の学習と研究に寄与することを目的に遺族から北海道に寄贈されたものであり、その有効な活用を図る必要がある。 ・北海道では、アイヌ文化に関する理解促進の一環として、アイヌ語地名に関する普及促進を進めており、アイヌ語地名については道民の関心も高く「山田秀三文庫」についても広く関心が寄せられていることから、利用のための条件を早急に整備することが必要である。 ・「山田秀三文庫」の内容整理や資料相互の関連性を明らかにするためには、アイヌ語・アイヌ文化・アイヌ史に関する学術資料を取扱うことができる専門的な知見が必要であること、山田秀三氏が生前調査を行った地域のアイヌ文化伝承者や博物館等の関係機関と広く連携をとって調査を行う必要があることから、道立の専門機関である当研究センターにおいて取り組むことが必要である。						
道が取り組む必要性 (a)・b・c						
【自己評価】	【意見】					
(A) B・C	アイヌ語地名研究の貴重な資料である「山田秀三文庫」を研究者並びに一般の利用に供するためにその内容分析調査を行なう当課題は、当研究センターの責務であり、研究に値する課題である。					
【総合評価】	【意見】					
(A)・B・C	アイヌ語地名研究に独自の方法を確立した山田秀三氏から寄贈された貴重な資料の整理・分析は、研究者や一般道民の利用に供するなど成果の還元が図られることから優先的に取り組む必要がある。					

(A) 重要な研究課題であり、優先的に取り組む必要がある
 (B) 有用な研究課題であり、できる限り早期に取り組む必要がある
 (C) 解決すべき問題等があり、なお検討していく必要がある

(a) 極めて高い、適切である
 (b) 高い、概ね適切である
 (c) 低い、改善の余地がある